

米国 I S M製造業景気指数 (12年7月)

発表日：2012年8月1日 (水)

～世界経済減速の影響により2ヵ月連続の50割れ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

I S M製造業景気指数 は49.8と前月比0.1% ポイント上昇

7月のI S M製造業景気指数は、49.8と前月比0.1%ポイント上昇したものの、市場予想の50.2を下回った。拡大縮小の分岐点である50を2ヵ月連続で下回り、製造業部門の縮小が続いた。欧州債務問題による世界経済減速などの影響を受け、輸出受注の落ち込みが大きくなった。ただし、I S M製造業景気指数の49.8という結果は、基準となる50を小幅下回る程度であるほか、米経済がリセッション時の水準である42.6を大幅に上回っていることから、経済活動の調整は軽微なものにとどまっている。

総合指数への構成項目別の寄与度をみると、雇用（前月比▲0.9%ポイント）が押し下げ寄与となった一方で、生産（前月比+0.1%ポイント）、在庫（前月比+1.0%ポイント）が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比+0.1%ポイント上昇した（新規受注、入荷遅延は前月比0.0%ポイント）。

I S M (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
11/10	51.8	53.4	52.7	54.0	46.5	52.2	47.5	41.0	50.0	49.5
11/11	52.2	55.0	55.7	52.4	46.5	51.3	45.0	45.0	52.0	49.0
11/12	53.1	54.8	58.9	54.8	45.5	51.5	48.0	47.5	53.0	54.0
12/01	54.1	57.6	55.7	54.3	49.5	53.6	52.5	55.5	55.0	52.5
12/02	52.4	54.9	55.3	53.2	49.5	49.0	52.0	61.5	59.5	54.0
12/03	53.4	54.5	58.3	56.1	50.0	48.0	52.5	61.0	54.0	53.5
12/04	54.8	58.2	61.0	57.3	48.5	49.2	49.5	61.0	59.0	53.5
12/05	53.5	60.1	55.6	56.9	46.0	48.7	47.0	47.5	53.5	53.5
12/06	49.7	47.8	51.0	56.6	44.0	48.9	44.5	37.0	47.5	53.5
12/07	49.8	48.0	51.3	52.0	49.0	48.7	43.0	39.5	46.5	50.5

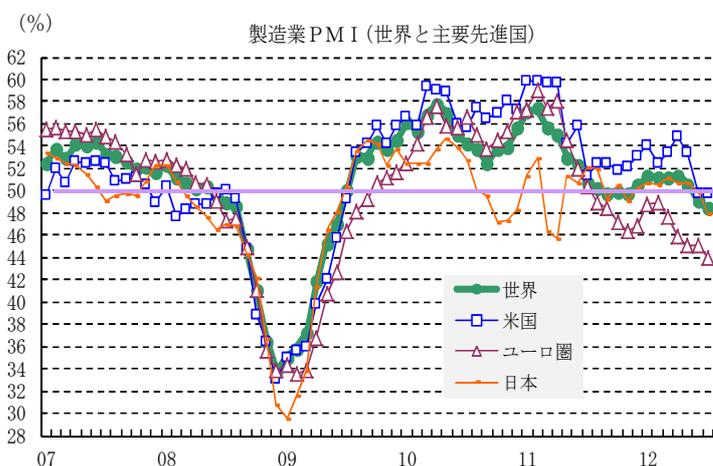
拡大した業種は7業種 にとどまった

活動が拡大した業種数は、全18業種中7業種（前月7業種）にとどまった。プラスチック・ゴム、電子機器・部品、一次金属、石油・石炭、加工金属、食品・飲料・タバコ、家具・関連製品。特に、新規受注、生産では拡大した業種数がそれぞれ3、4業種にとどまった。新規受注で拡大した3業種（13業種が縮小）では、プラスチック・ゴム、食品・飲料・タバコ、一次金属。生産で拡大した4業種（10業種が縮小）は、プラスチック・ゴム、食品・飲料・タバコ、一次金属、加工金属。販売が堅調な自動車向け素材関連や、先行きの価格上昇懸念の強い食品関連で受注、生産活動が拡大し、全体を支えている。

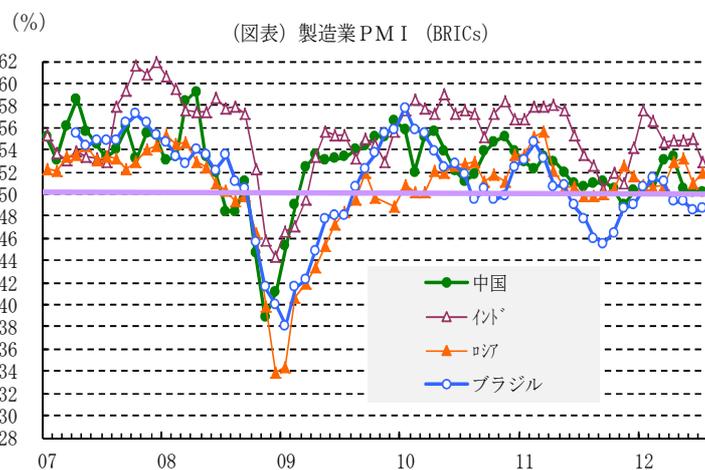
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

7月世界製造業PMI は48.4に悪化

7月の世界製造業PMIも48.4（前月49.1）と前月から悪化、2ヵ月連続の50割れとなっており、欧州債務問題などによって、グローバルに製造業部門の調整圧力が強まっていることが示された。欧州や日本など先進国の悪化に加えて、一部新興国も低下した。50割れは、米国、日本、ユーロ圏、英国、ノルウェー、豪州、韓国、台湾、ブラジル、トルコ、中国（中小企業中心）、チェコなど。一方、50を上回ったのは、中国（国有企業中心）、インド、ロシア、南アフリカ、スウェーデン、ハンガリーなど。



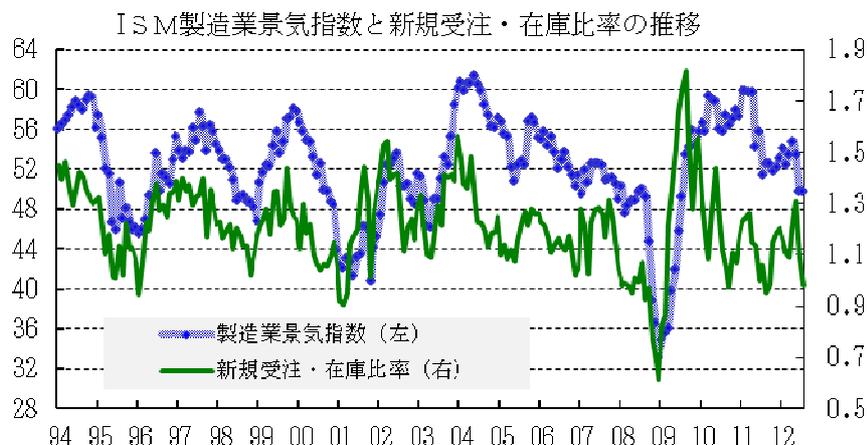
(出所) ISM, Markit Economics



(出所) Markit Economics

ISM製造業景気指数は 短期的な調整後、拡大を 示す水準に

今後に関しては、米国企業が過剰な在庫や雇用を抱えていないほかことや、緩やかながらも米国内需要の成長持続など下支え要因があるものの、欧州債務問題による世界経済減速の影響を受けると予想される。トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が大幅に低下し、低い水準となっていることから、ISM製造業景気指数は今後数ヵ月調整すると予想される。しかし、その後金融緩和などによる世界景気の底打ちを受け、製造業部門の拡大を示す水準を回復すると見込まれる。



(出所) ISM

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

輸出の拡大ペース鈍化を示唆

輸出受注D Iは、7月に46.5と前月比1.0%ポイント低下した。欧州、中国、日本、韓国、台湾などの製造業部門の縮小による輸出の増加ペース鈍化が示された。

輸出受注D Iの悪化は、前年比での輸出の拡大ペース鈍化が持続していることを示唆している。オバマ政権による5年で輸出倍増計画の達成に、黄色信号が点灯している。

各国の米国向け輸出の増加ペースは減速する可能性

輸入D Iは、7月に50.5と50を7ヶ月連続で上回ったが、前月比で低下しており輸入の増加ペースが抑えられていることを示唆している。また、新規受注D Iが48.0と前月から0.2%ポイント上昇したが、50を下回っていることから、先進国のほか、BRICSなど新興国の米国向け輸出の拡大ペースはさらに鈍化する可能性がある。

雇用D Iは52.0と製造業雇用の増加ペース鈍化を示唆

雇用D Iは、52.0と50を上回っているものの、前月比4.6%ポイント低下したことから、製造業部門の雇用者数の大幅な鈍化を示している。価格競争の激化によるコスト削減圧力の強まりを背景に、製造業部門での雇用の急速な回復は期待できない。

仕入価格D Iは39.5と川中でのインフレ圧力の弱まりを示唆

仕入価格D Iは、39.5と前月比2.5%ポイント上昇したが、水準が低いため、川中でのインフレ圧力は今後も弱まることを示唆されている。